

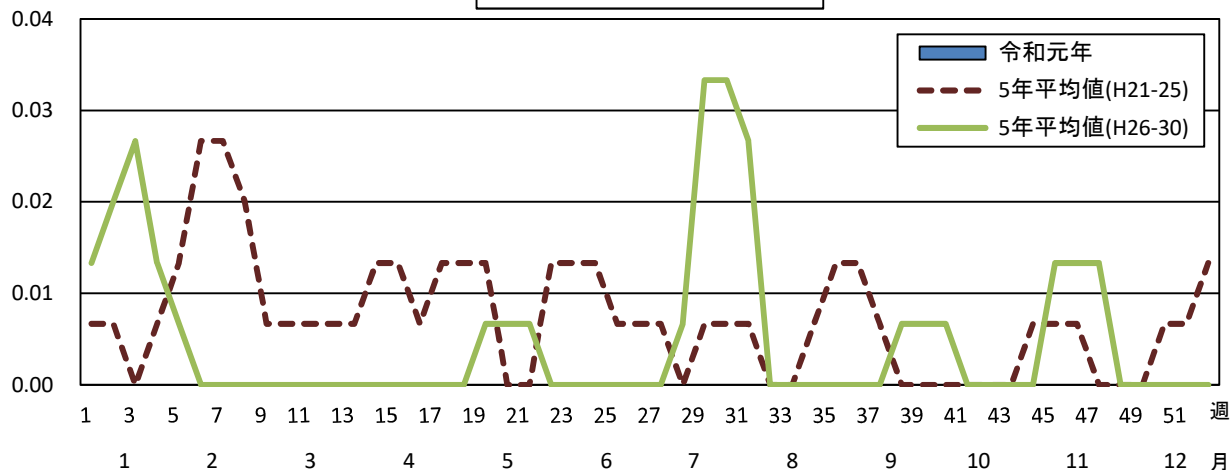
ウ 眼科定点

(ア) 急性出血性結膜炎

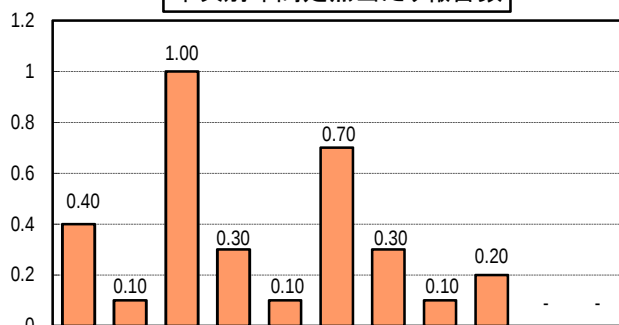
令和元年は報告がなかった。

過去10年間の年間定点当たり報告数は、最も多いのは平成23年(1.00, 報告数10例), 次いで平成26年(0.70, 報告数7例), 他の年は0.5(報告数5例)以下であった。

週別定点当たり報告数の推移

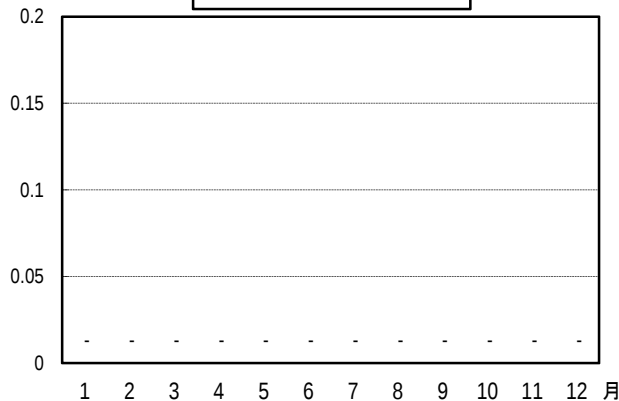


年次別年間定点当たり報告数

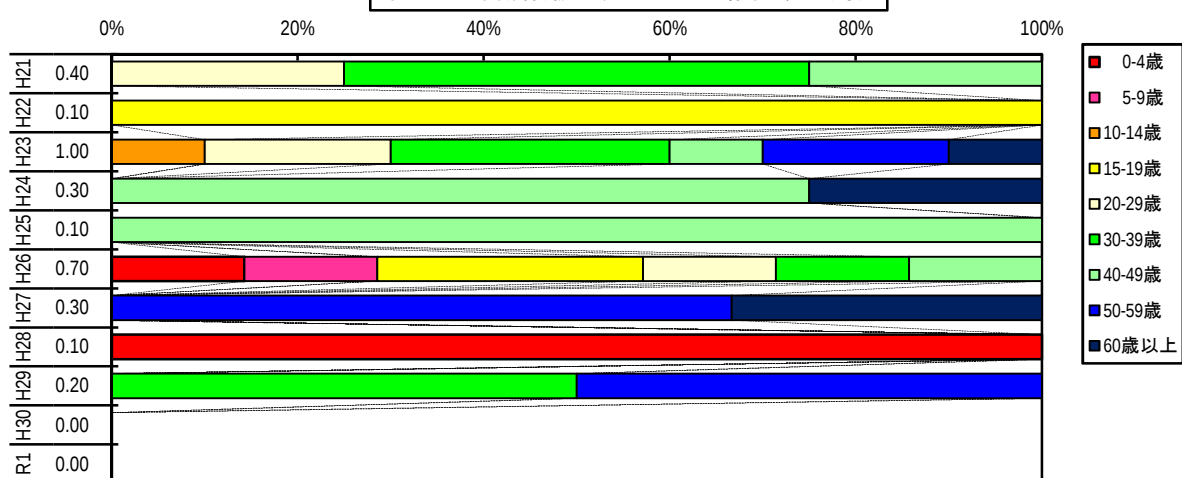


平成 平成 平成 平成 平成 平成 平成 平成 平成 平成 令和
21年 22年 23年 24年 25年 26年 27年 28年 29年 30年 元年

月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



(イ) 流行性角結膜炎

令和元年は年間報告数142例、年間定点当たり報告数14.20、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.58、前年比0.60であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数と比べると、最も少なかった。

月別定点当たり報告数では、7月及び9月(ともに2.20)が最も多く、次いで8月(1.60)が多かった。

年齢階級別では、30～39歳(22.5%)が最も多く、次いで20～29歳(21.1%)、0～9歳及び40～49歳(ともに16.2%)の順が多かった。

